

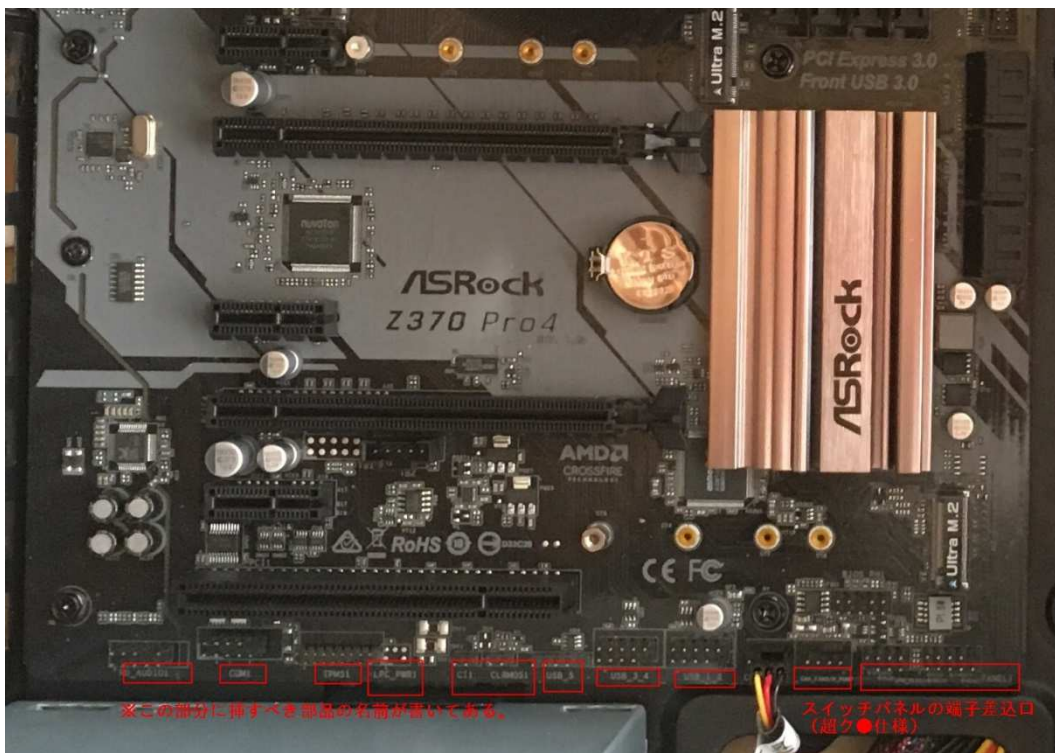
⑦ THE 配線！



配線の難易度（易⇒難）

易	ATX 電源ケーブル（スネークケーブル：一番太い線）
↑ ↓	ATX 12V ケーブル、USB2.0 ケーブル
	SATA ケーブル マザーボード⇔各種ドライブ
	SATA ケーブル 電源 BOX⇔各種ドライブ
	オーディオケーブル
	ファンケーブル
難	フロントパネルコネクタケーブル（電源ランプを制御する）

配線は、各ケーブルのプラグの形と差し込み口の形を覚えるのがカギです。マザーボードの説明書の図面と、マザーボード本体とを注意深く見比べます。マザーボードには確かにどこに何を差せばよいかは書いてありますが、半端なく小さい字で書いてあるし、差し込み口も高難易度の接続物ほど小さいです。※ここで「虫眼鏡」が大活躍



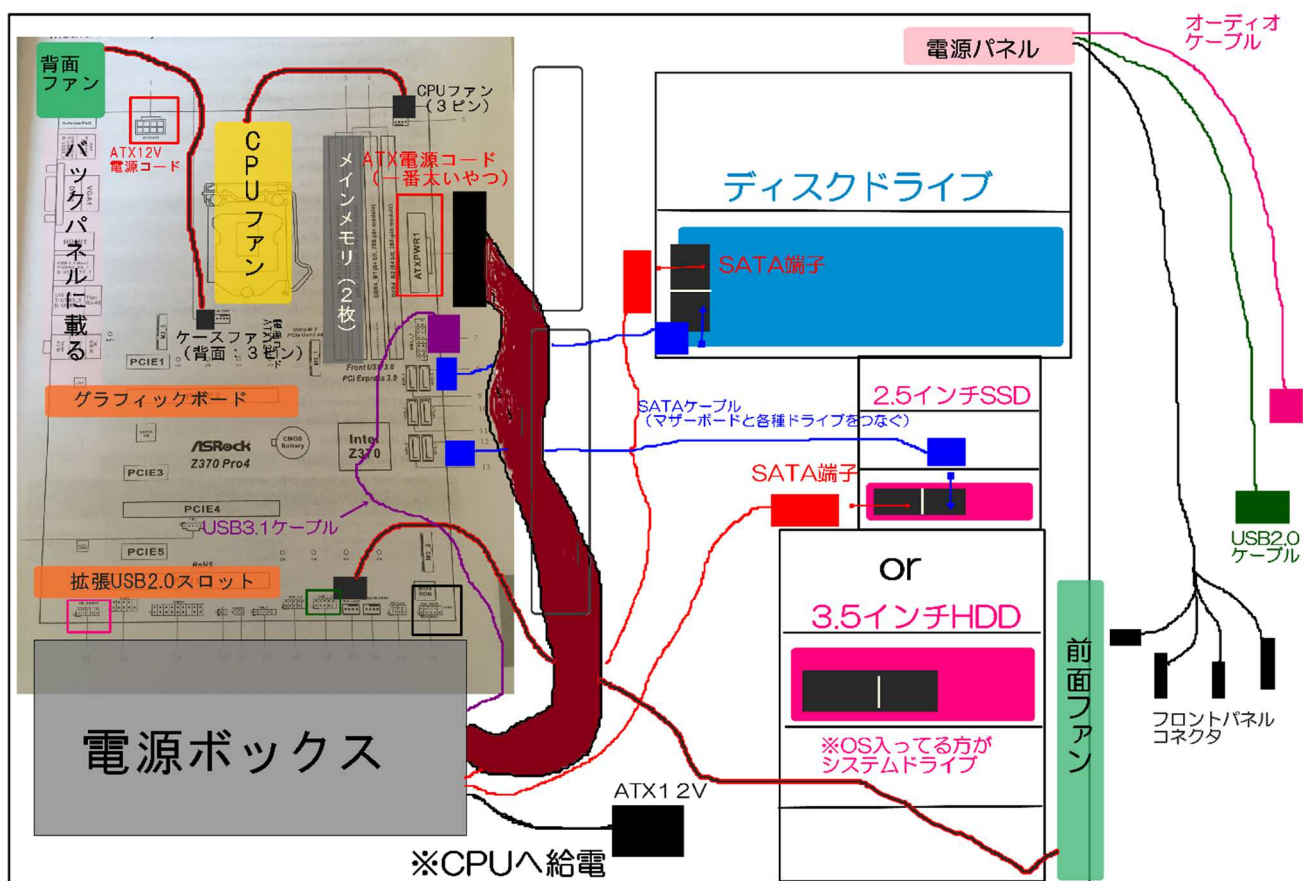
ケースファンやCPUファンのケーブル差し込み口も、意外と小さいし、前後の区別があります。マニュアルには確かに、どの差し込み口にどのケーブルを差すか、記述があります。

一通り配線をしたら、ディスプレイをつなぐ前に通電テストをしておくで安心です。そして、近頃の不文律として

裏配線

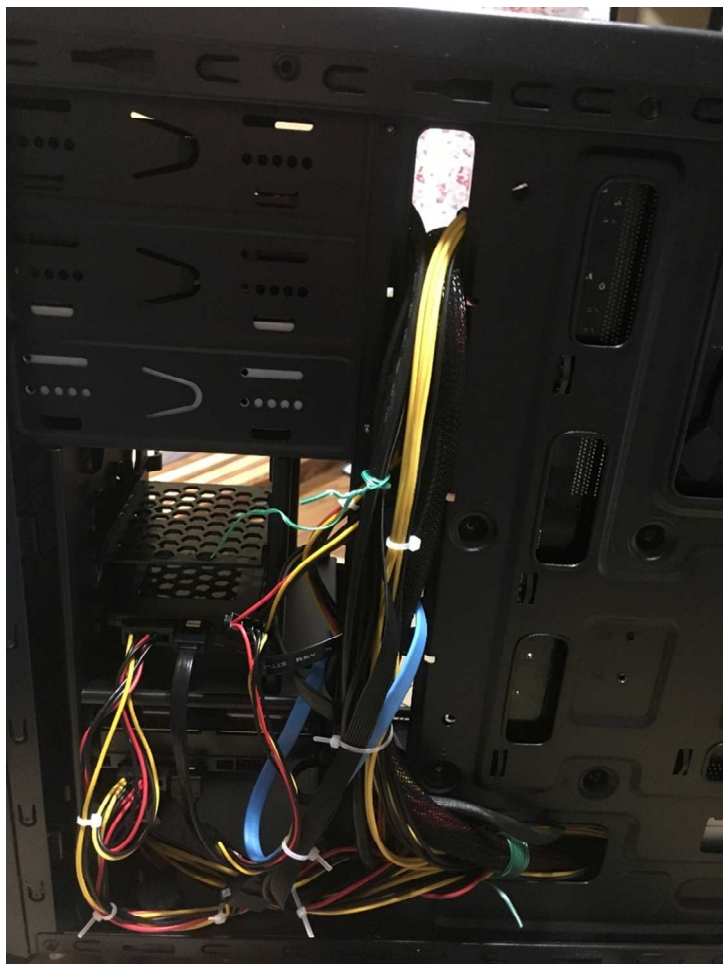
=マザーボード側にケーブルが渡っているのが見えないように、可能な限り配線途中をマザーボード裏に隠す

◆自作キット純正構成で配線した場合の図です◆

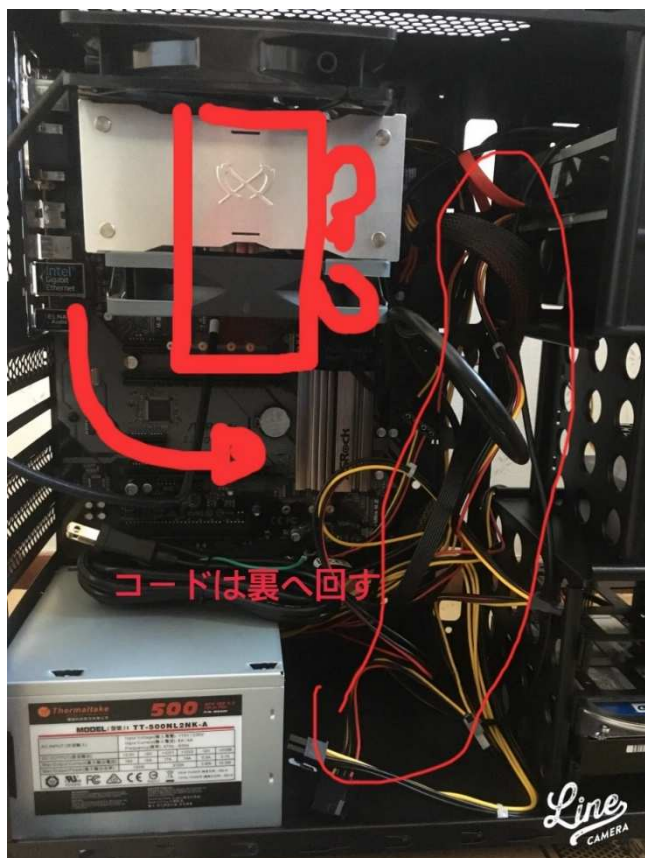


表から見た様子。

次ページは、ATX 電源スネークコード付近の裏側。



「裏配線」をきれいにまとめるためには、コード各種を結束バンドで留める前に、ビニタイで仮止めをしておきます。ビニタイで仮止めすることで、同じ方向を向いたケーブル間に空洞ができることを防ぎます。配線し直す必要ができた時も、ビニタイならば結束バンドと違って「一度ほどいて、また束ねる」が可能です。



前頁の画像は、「とりあえずパーツつなぎました」と、第1回目のQC（Quality Check＝常用に耐えるかの品質チェック）に行った時の物です。PCは、各パーツ接続されていれば、とりあえずは動きますが、ケース内をコードが縦横無尽に走っている状態では、コードがファンからの気流を妨げて、内部の冷却効率が下がる・・・が、店員さんからのアドバイスでした。ついでに、CPUファンの設置向きも間違っています。

ちなみにCPUファンの上に載っているのは、まだ取り付けていない背面ファンです。「動きさえすればいいや！」を防ぐためにも、初めての自作PC用セットを購入する時は、修理窓口があって、PC自作に詳しいスタッフのいる店を選ぶのが安心です。